

2011 年度活動報告

引退馬協会の年度が6月から翌年5月となっているため、2010年度はわずか3か月足らずで2011年度を迎え、2011年度はすべての事業を引退馬協会として実施いたしました。

1) はじめに

移行手続きがなかなかスムーズに進まず、イグレット軽種馬フォスターペアレントの会(以下、FPの会)と引退馬協会が並立する形が年度を通じてありました。最終的には2011年度末をもって、FPの会は幕を閉じました。その間FPの会に入った会費及び寄付の収入は、引退馬協会への寄付としました。

引退馬協会へ移行をしないまま退会した方が56名(一般会員25名・FP会員31名)となりました。経済の先行不安定感、引退馬支援活動の選択肢の多様化などが背景としてある中、「FPの会から引退馬協会への移行手続き」がひとつのハードルになったと思われます。2012年度は、会員数をいかに増やしていくかが大きな課題です。

2) フォスターペアレント(FP)事業

フォスターホースを支えるフォスターペアレント制度は引退馬協会の根幹事業です。フォスターホースの繋養、里親制度の運営、フォスターホースに関わる情報発信はすべてFP事業となります。

千葉の乗馬倶楽部イグレットに繋養しているハリマブライト、トウショウフェノマ、サマニターフと、北海道の渡辺牧場のナイスネチャ、セントミサイル、ウラカワミュキがこの一年健やかに過ごせたことを、支えて下さったすべての皆様に感謝いたします。

3) 「馬と人のふれあい事業」

フォスターペアレント事業と表裏いっただいとなっているのが、「馬と人のふれあい事業」です。「馬と人」の関係を身近にしていく「ふれあい」は、FPの会からもっとも大切にしていることです。本事業では4つの事業内容を実施しました。

1. 「フォスターホースと過ごす日」

千葉県の乗馬倶楽部イグレットにて、年に6回開催しました。会員に限らずどなたでも参加できるイベントとしてすっかり定着しています。2011年度は乗ったり、手入れをしたり、ニンジンあげたりするほかに、馬の歯科医によるレクチャーとデモンストレーション講座(3月)を取り入れました。2012年度も、こうした講座を取り入れる予定です。



歯科医師と獣医師の連携で治療中のサマニターフ

2. 「乗り方・接し方指導」

「フォスターホースと過ごす日」を除くと、「フォスターホース(以下、FH)騎乗」はグラールストーン亡きあとは、すっかり騎乗者が減り、たまにサマニターフが出動するくらいでした。サマニターフは若く、とても充実しており、また性格も温和です。またハリマブライトも最近になってとても乗りやすくなっています。馬に乗る楽しさや、馬とのコミュニケーションをとる楽しさを多くの人に体験していただけたらと思います。

3. 「NPO法人ホーストラスト(鹿児島)視察兼ボランティアツアー」

2月11日から13日にかけて実施し、会員有志9人(うちスタッフ兼2名)が参加しました。ボランティア作業は、馬の事故にもつながりかねない敷地内のツル切りをし、心地よい汗をかきました。ホーストラストスタッフとの交流と意見交換もとてもよい刺激となりました。



ボランティアのツル切りでいい汗を流しました

4. 「フォローアッププログラム」

本プログラムは引退した競走馬の新たな馬生を支援するための再調教プログラムで、安全に接することができるように馬と人の信頼関係を構築し、適性を見極め、譲渡先へ送り出すプログラムです。本プログラムを受講させたいと思った方が、本プログラムの実施施設(現在は乗馬倶楽部イグレットのみ)に移動する費用を負担、その方が譲渡後の見守りを行うというものです。



譲渡先の高校の先生と生徒さんとカエラちゃん

こうしたプログラムは海外の引退馬団体でも実施しており、譲渡先と譲渡馬の mismatch を防ぐために大変有効であると考えています。2011 年度ではカエラちゃん号が本プログラムの卒業生となり、関東の高校に譲渡されました(写真は2012年秋のもの)。

2012年度では2頭(既にボナンザーオペラがプログラム終了、リュウノスターが受講中)の調教の予算しか取れませんでした。もっともっと予算を取りたい活動です。また、本活動に共感する乗馬クラブがあれば、調教を委託したいとも考えています。

4) 啓蒙事業

1. 「あの馬たちの近況報告写真展」

引退馬の近況を写真とともに伝える「あの馬たちの近況報告写真展」を5月12日～20日まで、川崎競馬場にて開催しました。観客動員数は375名を超え、会のPRを兼ねたグッズ販売でも116,000円を超える売上がありました(バザー扱いで、FP事業へのご寄付として計上)。また、被災馬の特別展示として、北海

道の疎開の様子を伝えるとともに、疎開後の近況もお伝えしました。

競馬場での写真展の開催は、馬関係者や競馬ファンの引退馬への関心を高める効果があることから、大変意義のあることだと考えております。また、実際の来場者だけでなく、ホームページやフェイスブックで会が発する情報のほかに、競馬場や来場者が引退馬協会や写真展について情報を発信するという二次作用があり、写真展をきっかけとして引退馬協会の認知度が上がりました。

川崎競馬場での写真展が大変好評だったことから、2012年度の北海道4会場(丘珠空港、浦河町立図書館、門別競馬場、札幌エルプラザ)と、大井競馬場での開催が決定しました。



ダートや川崎競馬で活躍した馬たちの展示

被災馬の特別展示

2. ハッピーライフカバー

馬の健康手帳につける「ハッピーライフカバー」が完成しました。一般用と被災馬用の2種類があり、馬が行方不明になるのを防止します。配布は2012年度より、被災馬やフォローアッププログラムの卒業生(馬)に配布しています。今後一般向けの配布方法は決まり次第お知らせします。

5)引退馬ネット事業

対外支援活動全般で、馬の引き取りの相談等も行っています。

1. ツルマルツヨシの会設立運営サポート

ツルマルツヨシが新たに、9頭目のサポートホースとなりました。

ツルマルツヨシは競走生活を引退後、誘導馬となりましたが、脚を悪くして引退、現役競走馬時代のオーナーの手により功労馬として預託されていました。しかし、そのオーナーの死去により、栗東の厩務員の中西繁夫氏、競馬ライターの花岡貴子氏、カウボーイアップランチの宮田恵氏を発起人とするツルマルツヨシの会が設立されました。競馬サークル内から始まったこの会は、従来の引退馬協会の会員以外への訴求効果があり、順調に会員数を増やしています。

サポートホースが増え、引退馬を繋養する会が増えるにつれ、このツルマルツヨシの会のように独自に会員を広げることが必要になってきています。引退馬ネットはもともと安易な引取りを奨励するものではなく、これから会を立ち上げるつもりの方は、計画性をもって会を設立することが一層必要となります。

*引退馬ネットで長期的にサポートしている馬をサポートホースと呼んでいます。

2. マロンとブランカの助成

マロンとブランカは島根県の乗馬施設が破たんした際に救出された馬のうちの2頭で、北海道せたな町の酪農家に引き取られていましたが、牧場主が移転するにあたり、マロンとブランカを手放さなくてはならなくなつたため、NPO 法人ホーストラスト北海道(北海道共和町)のスポンサーホースとして受け入れていただきました。島根の馬たちを見守ってきた見守る会が不足分の口数を負担しなければならず、既に見守る会基金が底を尽きてしまったことから、ペガサスの翼基金より援助をしています。島根の馬たちの記憶が薄れてきていることもあり、このままではペガサスの翼基金を圧迫していることから、引退馬協会では「マロンとブランカのスポンサーを増やすための応援キャンペーン」を実施し、現在も継続的にアピールしていますがなかなか支援者が増えません。

【お願い】

マロンとブランカのスポンサーになってくださる方はホーストラスト北海道まで。スポンサーホースはマロンかブランカをぜひ指名してください。(指名がないと、他の馬に回ってしまい、引退馬協会の負担の軽減になりません)

<http://www.horse-trust.jp/hokkaido.html>

3. 馬のいる風景づくり

地方競馬最多勝利をあげた高知競馬のオリジナルステップの引き受け先を探してほしいという依頼がありました。高知競馬では、長年競走生活を送る馬がたくさんいて、ファンに大変親しまれており、2009 年に引退馬ネットのサポートホースとなったエスケープハッチも高知競馬出身です。

皆様のご協力により、オリジナルステップは、高知県土佐清水市の馬の養老牧場「あしずりダディ牧場」へと移動することができました。牧場独自の里親制度により繋養しています。土佐清水市では、ダディ牧場が中心となり、そうした馬たちが余生を過ごしながら地域の活性化につなげていくことを模索しています。こうした試みは、地方競馬の馬たちの受け皿が広がるので、引退馬協会としても応援していきたいと思えます。

5) 被災馬支援活動

引退馬協会としての活動のスタートが、未曾有の被害をもたらした東日本大震災の被災馬支援活動になった2010年度の事業をそのまま2011年度も継続して行っていました。支援活動における、設立時から2011年度までの累計の寄付金額は28,614,416円になっています。

多くの競馬関係者からの積極的なご協力もいただきました。前年度のアドマイヤの冠でおなじみの近藤利一様(株式会社合建)に続き、今年度はダーレー・ジャパン株式会社や吉田直哉氏(米国ケンタッキー州のウインチェスターファーム代表)を発起人とする世界のホースマンによる被災馬支援の「ハツツオフ・プロジェクト」や美

浦の大竹正博調教師、地方競馬全国協会の獣医師の皆様にも厚く御礼申し上げます。

相馬地方の馬への全頭の飼料支援は9月いっぱいまで、その後は飼養困難な飼い主と、「馬の避難所」へ原発20キロ圏内から避難している馬たちのための飼料支援は実質12月中旬まで、飼養支援(敷物、スタッフ雇用、獣医療、削蹄等)を11月いっぱいまで行いました。その後は南相馬市が管理を引き継ぎました。

8月から5月にかけては北海道日高町への疎開がありましたが、引退馬協会では疎開馬の馬運代94万円を日高町に寄付しました。また、被災馬の保護活動に尽力した相馬の中村神社には飼料代60万円を寄付しました。被災馬支援活動はすべて、皆様からお預かりした寄付により行っております。改めて御礼申し上げます。



馬の避難所の厩舎

北海道へ疎開した馬たちは5月までには全頭南相馬市にもどり、この夏の相馬野馬追に参加しています。お祭りは盛大に催されたものの、まだ避難所の馬たちは移動が許されず、馬の処遇が宙に浮いたままの状態になっています。また、帰る厩舎が津波に流されたり、原発により戻ることができないまま、各地を転々としている馬がいます。そうした馬の飼い主や、譲渡希望の馬たちが安住の地にたどりつけるよう最後まで見守ることが引退馬協会の使命と考えています。引き続きご支援のほどお願いいたします。2011年度の被災馬支援基金の残高は2,882,235円となり、今後の被災馬支援に役立てていきます。

6)最後に

FPの会から引退馬協会となって、活動の幅が広がりました。こうした幅広い活動を引退馬協会に期待し応援してくださる方がいる一方、「会が遠くなってしまった」と寂しく感じていらっしゃる方が少なくないように感じています。会の名称が変わっても、一頭でも多くの引退馬の幸せを願って始まった活動の原点は、今もまったく変わっていません。馬と人がより身近な存在となりうるよう、これからも皆様と一緒に取り組んで参りたいと考えています。